

第1回日本地震工学会「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する委員会」議事録

日時：2014年6月11日（水） 17:00-18:00

場所：工学院大学新宿キャンパス 21階第5会議室

出席者（敬称略）：安田会長、久田委員長、猪俣、大井、大森、加藤、黒沢、後藤、佐藤、庄司、末松、菅野、中村、古屋、増田、松田、三上、森永、大原（文責）、Google Hangouts はなし

配布資料

- ・第1回 議事次第
- ・委員名簿
- ・発足準備会合(4/16) 議事録（案）
- ・第1回委員会資料
- ・第14回日本地震工学シンポジウム資料
- ・第1回震災対策技術展（6/18 大阪）資料
- ・委員会趣旨説明資料（久田部会長資料）
- ・中規模ターミナル駅周辺での避難の課題（大原資料）
- ・新宿駅周辺エリアを対象とした中心市街地における災害対応能力向上のための教育訓練プログラムの開発報告書（工学院大学、新宿駅周辺防災対策協議会）

議事

1. あいさつ・メンバーの自己紹介

- ・安田会長から、委員会発足にあたってご挨拶をいただいた。
- ・メンバーの自己紹介を行った。

2. 新宿区新宿駅周辺地域・足立区北千住周辺地域に関する研究活動紹介

- ・久田部会長より、首都直下地震被害想定および新宿区新宿駅周辺地域などに関する研究活動の紹介が行われた。
- ・大原委員より、足立区北千住周辺地域に関する研究活動の紹介が行われた。

3. 各メンバーの研究活動への関心について

- ・ライフライン（都市ガス）の被害・復旧に関する情報提供（猪俣委員）
- ・地下街における災害時の対応、地下街から避難場所への誘導方法（大森委員）
- ・住民にも使ってもらえるような簡易な避難シミュレーション技術（末松委員）
- ・人々の受け止め方（黒沢委員）
- ・電力施設の被害推定（佐藤委員）
- ・建築物に付随した機械設備、町工場での機械設備の被害（古屋委員）
- ・地震動、地盤、情報共有プラットフォームの活用（大井委員）
- ・ライフラインの被害推計（庄司委員）
- ・建物のBCPや高層集合住宅におけるLCPを支援する建物管理方策、ヒートアイランド

による人々への影響、都市の災害脆弱性の評価（増田委員）

- ・被害想定の誤差や被害想定精度向上方法、確率の設定方法（中村委員）
- ・被害想定手法（加藤委員）
- ・地盤被害、戸建て住宅の液状化被害、ライフラインと平面道路（安田会長）

4. 総合議論

- ・議論のターゲットを絞った方が良い。非常に重要であるが盲点になっているものをきちんと明示することには意義がある。行政が現場レベルで検討していることを後追的に検討しても、面白くない。
- ・被害想定では、一つの精度が悪ければ、最終的なアウトプットの精度が下がる。精度のバランスを考える必要がある。
- ・新宿区・足立区を選んだ理由がわかりづらい。→新宿は業務が高度に集積した地区、足立区は複合災害リスクを持つ下町市街地として選んだ。
- ・アウトプットとして、具体例としての新宿区・足立区での事例研究を踏まえて、一般論とともに地域特性に応じた具体的な対策がどうあるべきかという視点で報告を行いたい。一般的な提言よりは、実態に基づく報告を目指している。
- ・地震動のレベルに応じて被害状況と対応策は大きく異なることも意識してまとめていきたい。

5. その他

- ・第14回日本地震工学シンポジウムの論文投稿締切は8/8
- ・第1回震災対策技術展（6/18 大阪）で、セミナー「命を守る避難の課題」を開催予定。
- ・次回の会議：8/1（金）10-12時 東京電機大学にて、
話題提供者：加藤委員、庄司委員、村上委員（予定）

以上